

ミツバチを用いた研究（都市型小規模養蜂の取組から）

フラワーファクトリ科 園芸デザイン部（ハニービーサイエンスクラブ） 2年生

2006年より、本校内でミツバチの飼育を行い、都市型小規模養蜂の可能性についての研究に着手した。学習奨励金を利用して、以下の研究を行ってきた。

- ①都市型小規模養蜂のスタイルの確立（ハチミツの生産と販売）
- ②養蜂技術の向上（ミツバチの餌となる代用花粉の開発）
- ③ミツバチの生育と周辺環境との関係を明らかにする（都市環境と生態系サービスに関する研究）
- ④ミツバチが利用する植物を用いたビオガーデンの制作
- ⑤ミツバチを用いた環境教育・食育への取り組み

昨年度より養蜂の原点に戻り、採れたてのハチミツを販売する研究に着手した。

「ハチミツの生産と販売」についての内容での研究を行ったので報告する。

目的

採れたてのハチミツは、花の香りがして非常に美味しい。しかし養蜂業者の多くは、採蜜後は大容量の容器でハチミツを保管し、採蜜の作業が一段落した時期（通常7月以降）にビン詰を行い販売する。この為に、採れたてのハチミツが販売されることはほとんどない。採れたて・新鮮なハチミツを販売し、ハチミツの美味しさを知ってもらい、ハチミツの愛好者を増やしたと考えた。また一部の養蜂業者が自家ハチミツを「生ハチミツ」と称し、誤った情報を流して販売している事もわかっており、本当のハチミツについての啓蒙することを目的に研究を行った。

計画・方法

本校での飼育ミツバチからの採蜜は、通常は5月中旬から始まり、8月初旬まで行っている。5月中旬～6月下旬までの約一か月半は、クローバーを中心にした良質な百花蜜が採蜜できる。「採蜜から販売までの期間は一週間以内のハチミツ」を、フレッシュハニー（新鮮なハチミツ）と呼び（本校オリジナルの呼称）し、採蜜後すぐにビン詰・販売を行う。

実施

5月中旬～6月下旬までの期間に、計8回の採蜜を行った。このうち4回（5月11日⇒5月12日・6月8日⇒6月10日・6月13日⇒6月14日・6月17日⇒6月19日・）の販売を行った。販売は、体育祭の見学保護者・校内の職員・生徒に限定して、昼休みを利用して行った。

表-1 採蜜・販売記録(5/11～6/20)

採蜜日	採蜜量	採蜜量	ビン詰数 (250g)	販売日	販売数
5月11日	6群	21kg	78個	5月12日	55
5月17日	4群	20kg	75		
5月24日	5群	32kg	116		
5月30日	2群	13kg	49		
6月8日	5群	35kg	80	6月10日	54
6月13日	3群	25kg	80	6月14日	60
6月17日	3群	15kg	52	6月19日	120
6月20日	3群	13kg	45		

結果

在庫のビンがなくなり、ビン詰めが間に合わず4回しか販売できなかった。ハチミツについては大変評判が良く、新たな顧客となった人が多かった。リピーターも多かった。

考察

本校内でのハチミツの販売は、記念祭での販売を主な目的としてきた為に、生徒・職員に販売する機会は少なかった。今回の販売により確実に、本校産のハチミツのファンになった人が多く、今後は定期的に販売を行う事の必要性を感じた。新鮮なハチミツ販売によるハチミツ愛好者を増やす（ハチミツの美味しさを啓蒙する）という目的で行った研究であるが、アンケート等を実施していないため評価が難しい。本校で販売したハチミツは、新鮮さを売り物にした非加熱の生ハチミツである。

以下の点を考慮して、来年度も引き続きこの研究は行いたい。

- ①本校産ハチミツは百花蜜であるが、品質的には大変優れたハチミツである。このハチミツを分析しての品質を数値化する。
- ②ハチミツ好きになるとモニターとして、本校のフレッシュハニー（新鮮ハチミツ）を評価・PRしてもらう。
- ③ ①②の点をもとに、定期的に販売を行いながら、本校フレッシュハニー（新鮮ハチミツ）の普及を図る。

消費者は、生ハチミツについては多少の知識を持っているが、フレッシュハニー（新鮮ハチミツ）という概念は乏しい。生ハチミツと共に、フレッシュハニーの概念を定着させたい。

*参考 「生ハチミツの真実と誤解」 俵養蜂場ライブラリー2019年トピックス Vol17